

第39回 中高校生の吃音のつどい(お料理教室)

3月16日(日)、小学生15人、中学生8人、高校生6人、ご両親24人、スタッフ31人の計84名が参加。江東区男女共同参画推進センター(パルシティ江東)にて開催。今回、全体的に見て、僕の場合は覚悟が足りなかったと感じた一日でした。それでも、会場から打ち上げの喫茶店に向かうまでは、さすががしい気持ちを味わいながら歩くことができました。こういう気持ちで毎日が過ごせればいいなあ～って今でも思います。人から元気をもらうというのはこういうことを言うのですね。今回のリーダーとしての僕の行動は「無難」だったなあ～と思います。つどいが失敗した訳ではないが、新しいことに挑戦・自ら動く努力をしたかと聞かれれば・・・(特にリーダー間での打ち合わせ)。結果、いざ料理!となると何度も菊地さんに力を借りてしまう破目に。子供達に巻き寿司の作り方を教えるのが楽しくて楽しくて、今頃になって「俺一人で楽しみ過ぎだよ」って感じです。調理室で鬼ごっこを始めた子がいたので流石にやめさせましたが、周りへの配慮は足りなかったかもしれません。他のリーダーの人達にはだいぶお世話になりました。

(リーダー;江口佑樹)

M.Yさん(小2 H君のお母さん)

今回は2回目の参加で、初めての時と同様、息子、夫、私の3人で参加させて頂きました。息子は最初緊張していたようですが、すぐにお友達ができたようで、ニコニコと楽しそうに話している姿を見て本当に嬉しくなりました。豚汁はなんと10回もおかわりしたそうです。

それから家族で参加しても、話し合い、昼食、調理・・・と、すべて別グループというのはとても良いですね。(同じだと結局固まってしまうでしょうし。) 吃音の子供を持つ親御さん達との出会い、一生懸命頑張っている子供達やスタッフの方々の姿、熱いメッセージは、私達親にも、息子にも、大きなパワーを与えてくれました。

今回、父親の参加者は、夫を含め2名だけでしたが、今後も私は夫を積極的に引っ張っていこうと思っています。普段仕事が忙しく、子供のことはとかく母親任せになりがちです。例えば吃音についていくら私が説明したとしても、きちんと伝わることはないと思うのです。とにかく「参加すること」「生の声を聞くこと」が一番ですよ!

話し合いの時にも少しお話しましたが、息子は言友会のつどいに参加したことをきっかけに、今まで以上に吃音のことを自分からオープンに話すようになりました。

「言葉のことをよく話してくれるようになったね。」と言うと、「それは僕が吃るっていうことを理解したからだよ。」と言っていました♪

つどい当日、伝えられなかった息子の日記を、いくつかピックアップしてお知らせします。

《3月7日》・・・道徳の時間に医学博士の藤井輝明さん(ユニークフェイスで知られる方)のことを中心に差別についての授業が行われたようです。自分と重なり、改めて色々考えたとのこと。担任の先生は息子のためにこの題材を取り上げてくださったそうです。

文中の○○くんはクラスのお友達で、かなり肥満なこともあり、数人の女の子達にひどい事を言われているようです。(男の子達でよく助けてあげるそうですが・・・)

サッカーで前までぼくの言ばのまねをしていた男の子が、ぼくが言ばを言われたのを止めてくれました。とてもうれしかったです。その子にぼくは、「ありがとう。」と言いました。

学校でどうとくの時間に「さべつ」というべん強をしました。さべつされている〇〇くんがかわいそうになりました。

ぼくも前までもることさべつされていたけれど、もうへいきです。今までで、言ばのことでん校したくなくなり、くるしかたりしてきたけれど、もうぼくはあん心しています。

大人になってもどもることは言われるかもしれないけれど、前に向かっていこうと思います。けれど、それにはまた、いやなことや、くるしいことがたくさんあると思います。だけど、ぼくはがんばっていきます。

今日のどうとくのべん強はとてもよかった四十分だったと思います。

三年生では心ばいです。けれど、自分でもよくここまでがんばったな、と思います。けれど、これでおわりではないので、ざんねんです。

ぼくがどもらなかつたら、ぼくはみんなの気持ちをわからずに、一日をすごしていたと思います。どもるからって、すべてがわるいのではなく、よかったことも少しはあったと思います。ぼくがどもらなかつたら、何かがかわっていたと思います。まだ子どもだから、どもることを前にして、思いやりのある、やさしくて、人の気持ちがわかる、そんな大人になりたいです。

母の力もかりて、ぼくはここまでできました。けれど、ぼくのがんばり、力などもくわわっていると思います。

見た目できめるのではなく、心できめなくてはなりません。ぼくにはそれができると思います。いくら太っていても、こぶがたくさんあっても、心がよかつたらいいと思っています。人の気持ちをわかる、そんな人が、やさしくて思いやりのある、すてきな大人になれると思います。

いつかまた言われるかもしれないけれど、そういう時にはみんなの力をかしてもらってがまんをするしかありません。

ぼくはいじめは大きらいです。いじめをしている人がいたなら、ちゅういしたいです。どもることはぼくのマークです。

《3月14日》…藤井輝明さんが子供向けに書いた本を読みたいと言うので購入しました。

ふじいてる明さんの書いた「さわってごらん、ぼくの顔」を読みおわりました。ふじいさんの気持ちがよくわかりました。とてもかわいそうでした。「ばけもの」と言われたり、つばをかけられるなんて、かわいすぎます。

ぼくはこんなことを考えてしまいました。もしどもらなかつたらてんこうしたくなくなり、からかわれたりしなくてよかったと思います。でも、お母さんは、「どもらなくてもどもっても、H(息子の名前)はH。お母さんがHにたいして思う気持ちは同じだよ。」とってくれました。

ぼくは、ふじいさんみたいな強い人になりたいです。いじめやからかわれるのにたえて生きていくということです。「どもっていないかつたら、何かがかわっていたはずだな。」とぼくは言いました。

ぼくはお母さんの言ばに元気づけられました。どもるから、何かうれしいことや楽しいことがきつとあるはずですから。

《3月15日から抜粋》…言友会つどいの前日

…明日、言友会のつどいです。昼食を作ります。当日まで何を作るかはわかりません。

ぼくより大きい人も、ぼくと同じ体けんをしているのだから、ぼくの気もちもよくわかると思います。明日がまちどおしいです。

まだわずか8才なのに、やはり吃音について色々なことを感じ、抱えているようです。きっと思春期になったら、もっともって考え、悩んだりするんでしょうね…。でも、言友会の先輩方を見て、きっと息子は困難

を乗り越えていってくれるのではないかとと思っています。そしてゆくゆくはスタッフになってくれると嬉しいです♪(息子もそう言っています。)

スタッフの皆さん、今回の準備も大変だったと思います。本当にありがとうございました。6月のつどいは無しになるかも??というお話でしたが、息子は「絶対やって欲しい!!」と言っていました。・・・私もぜひお願いしたいと思っています。皆さんお忙しいとは思いますが、もしなんとかなるなら??計画してくださいね。



菊地 利江(高2 由莉さんのお母さん)

一年以上ご無沙汰しておりまして、最初は浦島太郎の気分でした。でも、佐藤さんや松村先生のお顔がチラホラ見えてきて、ホッとする何かを感じました。これなんだなあって思います。スタッフOBの出村耕平さんが、飛入り参加なさっていらっしゃいましたが、「これだよ!これ!」って思います。故郷みたいな懐かしさがあるのです。暖かく迎えてくださる皆様。懐の広さ。舞い戻って来ても迎え入れてくださる。だから飛び立てるのかなあ。大学生になっても、社会人になっても、「おい!元気だったか?」って言ってくれる。自分には帰る場所がある。だから安心して旅立てるのでしょう。

普通に喋れている人達と日常仕事をし、神経をすり減らした時、この顔を見たくなるのでしょうか。{だからって、出村さんが傷ついて舞い戻ってきた訳ではありませんよ。お間違えの無いように(汗)。}そう思います。ずーっと、ずーっと「つどい」は続いていって欲しいです。なんで六月無いの?

親の話し合いグループに参加して、初参加の人々の多さに圧倒されました。そして初参加の方々のお話を伺いながら、私の歩んで来た道を思い起こしました。お聞きするうちに、穏やかな気持ちでお話を聞くことが出来る自分自身に驚きました。何故だろう?次女の吃音は治る気配さえありません。毎日吃ります。吃音の状態は相変わらず一進一退です。だから、私達が初参加の時と吃音の状態は全く変わらないはずなのに、穏やかな気持ちで聞くことが出来るのです。この心境の変化はなんなのでしょう。娘の成長と共に、私の面の皮が厚くなっちゃったのかな?そうかもしれませんが。やっぱりこの「つどい」のお陰のような気がします。たくさんの大学生や社会人のスタッフさんと出会ううち、安心感が生まれたのかもしれませんが。世の中は、ここのスタッフさんみたいな吃音者ばかりではありませんが、こんな人達と接してきた次女はひどい人生にならないんじゃないかと、勝手に思っているからかもしれません。こんなに素晴らしい人々と、出会ってきた中高生時代ですから、かなりラッキーじゃないかな?ウチの子の中高生時代って。

それと、やっぱり素敵なお両親多いです。こんな人に育てられたら、幸せだよなって思える方に出会えます。ココっていいですね。私が大好きな方の一人、Mさんですけど。私が病氣中に息子さんが中学生になっていました(苦笑)。小学校と中学校は対応違うし、先生も教科ごとに違うし、大変だろうと推察しておりました。でも彼女は「ウチの息子ほど学校で良くしてもらっている子はいない。」とおっしゃる。尊敬いたします。どんなに手厚く対応しても、不平不満をぶちまける両親が問題になっている現在、貴重品(おっと失礼しました)的な存在です。見習わなくてはいいけませんよね。そんな素敵なお両親に出会える場でもあります。